

下野市立国分寺中学校

1 学校課題

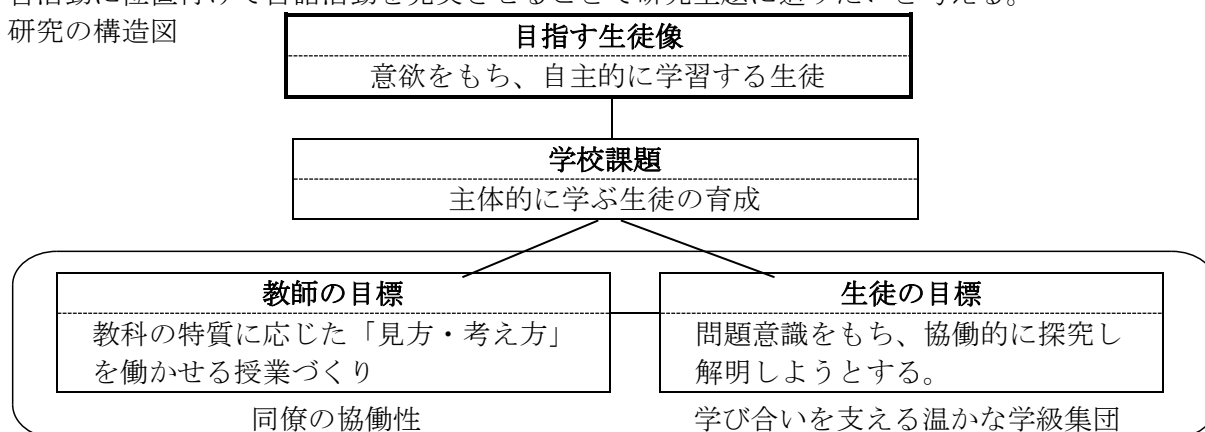
「自己を見つめ主体的に学ぶ生徒の育成」
～互いの考えを伝え合い、探究心を育む指導の工夫～

2 研究計画

(1) 研究主題設定の理由

本校では継続して「学びの共同体」の理念に基づいた授業実践を重ねており、ペア学習やグループ活動を取り入れている。そのような学習活動の中で、正確に理解して他者に的確に分かりやすく伝えたり、説明したりするとともに、互いの考えを伝え合うことで自分の考えや集団の考えを発展させることまでには至っていないと考える。そこで、正確に理解するために、どのような点に着目して理解するか視点をもたせたり、理解した後に自分の知識や経験と結び付けて考え、その理由等を明確に説明したりするなどの学習活動を工夫改善していきたい。このような活動を学習活動に位置付けて言語活動を充実させることで研究主題に迫りたいと考える。

(2) 研究の構造図



(3) 研究の具体

- ・多様な他者との学び合いを大切にした対話場面の設定
- ・「互いの考えを伝え合う」場の設定。多様な価値観や考え方に気付き、自分の考えが深まるような発問やワークシート、確認テスト等の工夫
- ・深い学びのための振り返り（毎時間の振り返り、単元や題材のまとまりとしての振り返り等の工夫）

3 研究内容

(1) 「学びの共同体」の理念を基にした授業づくり（①主体的な学び ②対話的な学び ③深い学び） 次のような学習観を教師同士で共有した。

- ・1時間の授業の中に、「活動（個人作業）」「協働（小グループ活動）」「表現の共有（対話）」を有効に活用することにより、生徒の学びを深化させ、質の高い学びを成立させる。

(2) 同僚の協働性

教師全員が授業を見せ合い、教科に関係なく日常的な授業を他者に開き、自分の授業の参考とした。（一人一公開授業の実施）

(3) 温かな学級集団を支える教師と生徒とのよりよい関係づくり

教師が授業や学校生活において、生徒の気持ちを共感的にとらえ、子どもの思考に寄り添った指導を行った。

(4) 授業研究会の充実

今年度は、3回の校内研修（自主公開研を含む）を行った。

月	実施内容 および 授業研究会（授業、協議、講話）を通して
4	学習指導における共通理解
7	第1回校内研修会 下野市人権教育研修会 【3年社会】子どもの権利を守るために、どのような取組が必要だろうか ・権利条約カードを見たことで、改めて子どもに権利があることを理解できていた。 ・カードの内容を精査する必要があった。（内容が重なってしまった。）
10	第2回校内研修会 S&Uコラボ事業 【2年道徳】「働く」とは何か考えてみよう ・導入でのICTの活用が効果的であった。 ・教師からの問い返しにより、思考が深まった場面が見られた。 ・資料の分断は考慮すべき。生徒の思考も分断することがあった。 ・道徳は思いを語るもの。伝え合う活動から考えが深まっていった。 ・終末が導入の考えた内容へと戻されたことで、1時間の授業の流れが見えた。 
12	第3回校内研修会 自主公開研究会（全クラス公開授業） 【焦点授業1年英語】 外国人に対して行きたい場所を聞いて、道順を伝えることができるようになる 【講話】探究と協同による学びのイノベーション ・自分の考えを話すときには原稿を書かせずに取り組ませたいが難しい。→ジャンプ課題の設定が重要⇒探究心へと繋げる ・一人になっている生徒がいない。伝え合う活動を通して、安心して発言できる温かい雰囲気 の学級である。素直でまっすぐに学びに向かっている。 ・「生きた言葉」を学ばせたい。そのためには教科横断的な課題を設定するのもよい。 ・「質の高い学び」へ繋げるために挑戦をさせる。→楽しさから学びに繋がっていく。

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

年間を通して、「主体的に学ぶ生徒」を育成することを意識し、様々な実践ができた。

今年度は、「互いの考えを伝え合う」という視点に重きを置いた。各教科の「学び合い」の活動の中で、他者の考えや意見に触れ、多様な価値観や考え方を根拠とした解答を導き出したり、検証したりできて、生徒の考えが深まる場面が見られた。

更に、「学び合い」活動の中で、生徒達は互いに教え合うことで、自分や相手が分かる喜びを得て、学ぶ楽しさへと繋がった。

また、ICTを効果的に活用して、授業の導入を工夫して生徒の学習意欲の向上に繋がったり、自分と他者との考えを視覚的に比較したりできた。



(2) 研究の課題

「互いの考えを伝え合う」場面において、「ジャンプ課題（発展的課題）」に対し、挑戦しようとする生徒がいる一方で、意欲的に課題に向かえなかったり、何がわからないのかを説明できなかったりする生徒も見られた。特に「学び合い」の中で、話題が広がったり深まったりするような質問の仕方が分からずに、活動が止まってしまう場面もあった。また、自分の考えを具体的に書く活動などで、個人差が大きく、教師の助言が必要であった。

教師はコーディネーターではあるが、思考が深まるような問い返しや、個に応じた助言が適宜必要である。今後は話合いのひな型なども示し、生徒が表現できる内容の幅を広げていきたい。